第 174 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録（案）
日時：2004 年 12 月 15 日　9:00-12:00
場所：　日本交通協会（有楽町）特別会議室

出席者（順不同、敬称略）：
委員長：岡本（電中研）
委員：小山（東芝）、東村（日立）、田中（早大）、長尾（豊橋技科大）、田中（古河電工）、山野（千葉大）、福永（情報通信研究機構）、磯島（住友電工）、山之内（日新電機）
幹事：内田（中部電力）、宮下（三菱電線）
幹事補：岡下（昭和電線）、西川（芝工大）
オブザーバ：高橋（電中研）

資料：
第 173 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録案
174-1　第 62 回基礎・材料・共通部門　研究調査運営委員会議事録（案）
174-2　第 11 回「ケーブル・電気機器のオンライン計測による絶縁劣化診断」調査専門委員会議事録
174-3　電気学会　ナノコンポジット委員会（第 9 回）議事録
174-4　情報通信のための誘電絶縁材料委員会　第 4 回資料、および第三回　情報通信のための誘電絶縁材料調査専門委員会議事録
174-5　H16 誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（10 次案）
174-6　H17 誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（1 次案）
174-7　調査専門委員会フォローシート（2004 年度）
174-8　調査専門委員会フォローシート（2005 年度）
174-9　2004 年電気学会優秀論文発表賞審査結果集計(20041215)
174-10　問題提起：電気電子絶縁材料システムシンポジウムの活性化
174-11　電気学会Ａ部門論文誌特集号「ナノコンポジット誘電体の創成、評価そして応用」提案書
174-12　第 35 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催報告（案）および収支報告書
174-13　平成 17 年電気学会全国大会シンポジウム（案）提案用紙
174-14　ISEIM2005 論文申し込み状況
174-15　ISEIM2005 論文申し込みリスト
174-16　ISEIM2005 参加者分析参考資料
174-17　ISEIM2005: Nanocomposite Session
174-18　ISEIM2005 Asian Technical Exchange Session in Preparation
174-19　ISEIM2005 Time Schedule (tentative)

174-20　ISEIM2005 Program (tentative)
174-21　日本入国 VISA 手続きについて
174-22　第 14,15 回プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査専門委員会議事録

議事：
１．前回議事録について
　西川幹事補が読み上げ、承認された。
２．資料 174-1 について
　第 62 回基礎・材料・共通部門　研究調査運営委員会議事録（案）である。岡本委員長より、以下の報告がなされた。

・ 優秀論文発表賞の各技術委員会への割り当てに３５才以下の発表者数を考慮するため、研究会発表申込書の送付の徹底の要請があった。これに対して、フォーマットの改善要請（35 才以下のみ記入する）をしてはどうかとの意見があった。
・ ISEIM2005 の活動資金申請（申請額 40 万円）に対し、10 万円に減額され承認された。これは原資が少なくなっている背景があり、他の申請に対しても同様とのこと。これに対し、独立採算に戻すように委員会としての考えをとりまとめ、運営委員会に上げる必要があるとの議論があった。
・ 全国大会シンポジウムに対し、３件の申請が承認された。
・ 新規調査専門委員会（山野委員）：解散趣意書は承認されたが、設置趣意書は、一部修正（8 割以上会員）の後、承認された。単行本発行については、技術報告書の代わりとできるとの指摘があった。また、調査委員会より出版社（電気学会、オーム社等）に出版の働きかけをする。
・ 各技術委員会に対して、研究会等の成果を論文集特集号として企画する旨の要請があり、今後計画的に進めることとした。

３．資料 174-2 について
　第 11 回「ケーブル・電気機器のオンライン計測による絶縁劣化診断」調査専門委員会議事録である。内田委員より、技術報告書の目次案作成中等の報告がなされた。

４．　資料 174-3 について
　電気学会　ナノコンポジット委員会（第 9 回）議事録である。田中委員より、半年後終了に向けて目次作成準備中等の報告がなされた。

５．　資料 174-4 について
　情報通信のための誘電絶縁材料委員会　第 4 回資料、および第三回情報通信のための誘電絶縁材料調査専門委員会議事録である。福永委員より報告がなされた。

６．資料 174-22 について

第 14,15 回プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査専門委員会議事録である。山野委員より、共同実験等の報告がなされた。

７．資料 174-5 について

H16 誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（10 次案）である。宮下幹事より、説明および予定の確認がなされた。

・ ３月国際会議報告（CEIDP,ICSD,CIGRE,IEC）を会議参加者に打診する予定。
・ 論文誌特集企画の有無のチェック項目をH17 年度からフォローシートに入れる。
・ 開催日時の決定、論文集めは担当者が行う。一方、研究会会告等の学会への連絡は、研究開催管理表を作成し、幹事団で行うこととした。

８．資料 174-6 について

H17 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（1 次案）である。宮下幹事より、説明があった。

・ A 部門大会シンポジウムについては､福永委員が情報通信誘電材料で６件程度で調整中。
・ 10 月、11 月に予定されている３件の有機薄膜関連の研究会を２件程度に調整するよう金子委員に打診中。

９．資料 174-7 について

調査専門委員会フォローシート（2004 年度）である。フォローシート宮下幹事より説明がなされた。

１０．　資料 174-8 について

調査専門委員会フォローシート（2005 年度）である。宮下幹事より説明がなされた。

・ インバーターサージに関する新規調査専門委員会設置（放電技術委員会と合同設置）を検討してきたが、４月設置は難しい見通しである。
・ ポリマーがいしについては、今後の予定を後藤委員に打診する。
・ 「イオンマイグレーションの発生特性と防止方法」調査専門委員会は H17 年 5 月からの設置が承認済み。

１１．　資料 174-9 について

西川幹事補より、平成１６年電気学会優秀論文発表賞審査集計結果が報告された。

・ 本結果を元に、幹事団で同賞の被推薦者を検討することとした。
・ 審査にばらつきがある。今後は審査を複数名で行うこととし、少なくとも座長および担

当者の２名で審査することとする。
幹事団で原案を作成し、次回(2005/1/28)開催の技術委員会で議論することとした。

１２．　資料 174-10 について
田中委員より、電気電子絶縁材料システムシンポジウムの活性化に関する提案がなされ、以下の議論がなされた。

・ 活発化には、幹事団から企画の意図をもって調査専門委員会に働きかける必要がある（セッション Chair を決め、論文を集める方法など）
・ 表彰をより visible なものとすべき。→過去の受賞者リストをプロシーディングスに印刷する。
・ 研究会とシンポジウムの違いをどのようにするか？→異分野の研究者を一同に集め、意見交換することに意義がある。
・ 他の技術委員会では、本技術委員会のようなシンポジウムの開催がないので、シンポジウムに取り込む努力をすべき。

今後は、可能なことをリストアップして、２年後開催の絶縁シンポジウム企画準備をすることとした。

１３．　資料 174-11 について
電気学会Ａ部門論文誌特集号「ナノコンポジット誘電体の創成、評価そして応用」についての提案書である。田中委員より説明がなされた。

１４．　資料 174-12 について
第 35 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム開催報告(案)および収支報告書である。岡下幹事補より報告がなされた。集客人数等の目標をもって取り組んで欲しいとの意見があった。

１５．　資料 174-13 について
平成 17 年電気学会全国大会シンポジウム（案）提案書である。
「ポリマーがいし材料の表面放電特性評価と材料劣化診断」
「２１世紀における有機エレクトロニクスー有機デバイスとナノテクノロジーー」
「有機高分子材料の高電界現象と電荷挙動　ー最新の評価技術と現象の新しい理解ー」
の３件の開催が承認されたとの報告が、岡下幹事補よりなされた。

１６．　資料 174-14,15 について
ISEIM2005 論文申し込み状況および内訳である。

１７．　資料 174-16 について

ISEIM2005 の申し込み参加者分析である。

１８．　資料 174-17,18 について

ISEIM2005: Nanocomposite Session および ISEIM2005 Asian Technical Exchange Session in Preparation について、田中委員から説明がなされた。

１９．　資料 174-19,20 について

ISEIM2005 Time Schedule (tentative)および ISEIM2005 Program (tentative)である。宮下プログラム委員長より説明がなされた。申込件数 283 件の内、ポスターセッションが 193 件となっているが、イベントホールのスペースの関係上、調整が必要である。

２１．資料 174-21 について

内田委員より、ISEIM2005 開催に際して必要な日本入国 VISA 手続きについて説明がなされた。

２２．次回開催日について

2005/1/28, 名古屋。

以上。